

今日は黙示録9:1-12から「いなごのわざわい」と題して2つの点でみことばを取り次ぎます。

1. いなごのわざわい 1-6

先週は幸いなペンテコステ礼拝を持つことができました。今日は黙示録に戻り9章前半を見ていきます。その前の8章では第7の封印が解かれ、最初の4つのラッパが鳴り、地上と海と川と天体に災いが起こりました。そして一羽の鷲が中天を飛びながら「わざわいだ、わざわいだ、わざわいが来る」と言って、これからさらに3つの災いが来ることを告げました。そして今日の箇所は3つの災いの最初のいなごの災いです。それは第5のラッパが鳴る時に起こります。

【1 第五の御使いがラッパを吹いた。すると私は、一つの星が天から地に落ちるのを見た。その星には、底知れぬ所に通じる穴の鍵が与えられた。】第5の御使いがラッパを吹くと、ヨハネは一つの星が天から落ちるのを見ました。「その星には、底知れぬ所に通じる穴の鍵を与えられた」とあるので、この星は通常の天体ではありません。では何かというと、この星は神から遣わされた御使いです。1:20に「7つの星は7つの教会の御使いたち」とあるように、ここでも星は御使いを表しています。この御使いは底知れぬ所に通じる穴の鍵をイエスから与えられました。20:1にも底知れぬ所の鍵を持つ御使いが現れます。20章では御使いはサタンを底知れぬ所に投げ込み、千年間閉じ込めます。底知れぬ所とは、悪魔や悪霊の居場所です。御使いが底知れぬ所の鍵を持っているとは、悪魔も悪霊も神の支配下にあるということです。

【2 それが底知れぬ所に通じる穴を開くと、穴から大きなかまどの煙のような煙が立ち上り、太陽と空はこの穴の煙のために暗くなった。】御使いが底知れぬ所に通じる穴を開くと、煙が立ち上がり、太陽と空は煙のために暗くなりました。この煙は神のさばきを象徴しています。

3-4 【3 その煙の中からいなごが地上に出て来た。それらには、地のサソリが持っているような力が与えられた。4 そして彼らは、地の草やどんな青草、どんな木にも害を加えてはならないが、額に神の印を持たない人たちには加えてよい、と言い渡された。】その煙の中からいなごが出てきました。いなごの災いは出エジプトの8番目の災いに出てきました。さらに旧約聖書にはいなごによる神のさばきの災いがたびたび出てきます。けれどもこのいなごは通常のいなごとは違う、神のさばきを行う超自然的な存在です。通常のいなごは草木、野菜や穀物に害を加えますが、このいなごは植物には害を与えません。代わりに額に神の印を持たない人たち、即ち神の民でない人たちにだけ、いなごに与えられているサソリのような力で苦しめます。

5-6 【5 その人たちを殺すことは許されなかったが、五か月間苦しめることは許された。彼らの苦痛は、サソリが人を刺したときの苦痛のようだった。6 その期間、人々は死を探し求めるが、決して見出すことはない。死ぬことを切に願うが、死は彼らから逃げて行く。】いなごはその人たちを殺すことは許されていませんが、5か月間苦しめることが許されていました。いなごに刺された人たちは、サソリが人を刺したときのような苦痛を受けます。人々はあまりにも苦しいので、死を求めますが、神はその人たちが死ぬことを許しません。

第1の点で覚えたいことの一つは、神は額に神の印を持っている人にはいなごの災いは下されないということです。神はご自分の民をいなごから守られるのです。これは出エジプトの災いの時に、暗闇がエジプト中を覆っても、イスラエル人が住む所には光があり、さらにエジプト中の初子が死んでも、イスラエルの初子はだれも死ななかったことと似ています。先の4つのラッパによる天災は、神の民も神の民でない人と同じように影響を受けるでしょう。さらに神の民は迫害による苦難も経験します。けれども、神は大患難時代においてご自分の民を特別に守っておられることを、いなごの災いを通して知ることができます。そしてこのことはやがて最後の審きの時に、神の民は審きを受けることなく、天の御国に入ることができることを教えているのです。詩篇4:3に「知れ。主はご自分の聖徒を特別に扱われるのだ。私が呼ぶとき、主は聞いてくださる」とあるように、大患難時代においても神はご自分の聖徒を特別扱いして守ってくださるのです。

もう一つのことは、いなごの災いを受けて苦しむ人たちが、死を求めても、死は彼らから逃げて行き、死ぬことができないということです。これは、神はこの警告的さばきによって、人々が死ぬのではなく、悔い改めることを願っておられることを教えています。残念ながら、今日も人生の苦しみから逃れる方法として、人は自ら死を選ぶことがあります。日本は自殺する人が国際的にも多い状態が続いています。うつ病などの精神疾患で自殺、自死をする場合は病的な死と理解することができます。それでも神はどんな場合も自殺を望んではおられません。学校での自殺予防教育や地域での自殺予防策が効果を上げている国や地域もあるそうです。「神はすべての人が救われて、真理を知るようになることを望んでおられます。」1テモテ2:4 神は、一人ひとりに与えた尊いいのちを、他人が奪うことも自分で奪うことも願っておられません。神は私たちが救い主イエス・キリストを信じて、生きることを願っておられるのです。警告的さばきは、悔い改めと信仰によって生きようという

神の救いの招きでもあるのです。

2. いなごの王 7-12

7-12 節はこのいなごの特徴がさらに記されています。

【7 いなごたちの姿は、出陣の用意が整った馬に似ていた。頭には金の冠のようなものをかぶり、顔は人間の顔のようであった。】いなごは出陣の用意が整った馬のように、神の民でない者に対して襲いかかろうとしています。金の冠は、24 人の長老と人の子のような方、即ちイエスがかぶっています。一方、いなごがかぶっている金の冠のようなものは、金の冠とは違い、彼らの力を表しています。「顔は人間の顔のようだ」とは、いなごには人間のような知性が与えられているということです。

8-9 【8 また、女の髪のような毛があり、歯は獅子の歯のようであった。9 また、鉄の胸当てのような胸当てを着け、その羽の音は、馬に引かれた多くの戦車が戦いに急ぐときの音のようであった。】「女の髪のような毛」とは、いなごの触覚のことで、この触覚を用いて、額に神の印を持たない人を見分けて害を加えます。「獅子のような歯」は神のさばきの厳しさを表します。「鉄の胸当てのような胸当てを着け」ているいなごを滅ぼそうとしても、いなごの堅い守りによって滅ぼすことはできません。「その羽の音は、馬に引かれた多くの戦車が戦いに急ぐときの音のようだ」とあるように、このいなごの数は非常に多く、大群で攻めてくる羽の音を出して、襲ってきます。

【10 彼らはサソリのような尾と針を持っていて、その尾には、五か月間、人々に害を加える力があつた。】いなごにはさそりのような尾と針があり、その尾には5 か月間、人を苦しめる力があつた、その尾と針で神の民でない人に攻撃してきます。その尾で刺されると、人は5 か月間苦しみます。5 か月間は、通常のいなごの寿命ということですが、ここでは神が許される限定的な期間を指しています。

【11 いなごたちは、底知れぬ所の使いを王としている。その名はヘブル語でアバドン、ギリシア語でアポリュオンという。】箴言 30:27 に「いなごには王はいないが、みな隊を組んで出陣する」とあるように、昆虫のいなごには女王バチのような王はいません。しかし、この超自然的ないなごは、底知れぬ所の使いを王としています。その王の名はヘブル語でアバドン、ギリシア語でアポリュオンです。脚注を見るとアバドンは破壊、アポリュオンは破壊者という意味です。この王とは悪魔、サタンのことです。いなごはサタンの配下にあります。そしてイエスはサタンやいなごを支配しています。そしてイエスは、いなごが持つ力をもって神のさばきを下しました。

【12 第一のわざわいは過ぎ去った。見よ、この後、なお二つのわざわいが来る。】5 か月という神が許された期間のいなごの災いは終わります。けれどもあと2つのラッパによる災いがやってきます。

第2の点で覚えないことの一つは、私たちが悪魔の支配下ではなく、イエスを信じて神の支配下にいることの大切さです。神の側にいないことは、悪魔の側にいることになります。今日の個所でも神の民はいなごの災いを受けず、神の民でない者だけが災いを受けました。13 章を見ると悪魔に仕える反キリストである獣が、悪魔の側にいる者に獣の刻印を押します。地上では獣の印を持っている者だけが売り買いできるというメリットが与えられます。一見、良いように思えますが、悪魔の本質は破壊です。その人を最終的に滅びに至らせます。

イエス・キリストは、私たちが神のさばきを受けて滅びることなく、永遠のいのちを持つために十字架で死んで、罪からの救いを成し遂げてくださいました。そして三日目によみがえり、父なる神への生ける道となって、私たちを永遠のいのちの祝福に満ちた天の御国に入れてくださいます。イエスを信じる者には、聖霊の証印が心に押され、聖霊なる神様が私たちの心に住んでくださいます。これが神の印を額に受けるということです。ですから、イエスを信じて聖霊の証印を受けて、神の支配下にいる者となりましょう。

もう一つは、信仰の決断は大患難時代が来るのを待ってはいけないということです。私たちは黙示録の大患難時代の災いを読むと、今はまだそのような災いが来ていないので、信仰の決心を急ぐ必要はないと思うかもしれませんが、私たちはみな個人的な終末である死に向かっています。私たちはいつまで生きられるのかだれもわかりません。私たちのいのちは、神が支配しておられます。ですから、今日という日を大切にしなければなりません。そしてこのことは信仰の決心についても言えることです。もう少し納得してから、もう少し状況が整ってから、もう少し家族の理解が深まってから、もう少し、もう少しと言っている間に、やがて時は過ぎ、信仰決心の機会を失ってしまうことにもなりかねません。そのようなことがないように、今日イエスを信じるお祈りをして、心に聖霊の証印を押していただき、神の民としての歩みを始めましょう。また神の民とされている一人ひとは、神の民であることの恵みを、いつでも人々に証ししていきましょう。